

明治七年山県郡医師調査について

末田 尚、進藤 岱三

我々は山県郡医師会史を編纂するために、江戸時代後期において郡内の医療に苦勞した先輩医師の活躍をも記載したいと考え調査を行ってきた。今回、後に第五大区医務取締りとなった穴村の児玉俊造が行った明治七年七月の山県郡医師調査を児玉良亮がくず紙の中から見つけ、昭和十五年の紀元二千六百年記念事業のために参考になればといて、当時郡医師会長であったと考えられる弓削誓一に送った略文が見つかったので報告する。

明治六年六月太政官布告により、文部省に医制の取り調べが命じられ、二代目文部省医務局長の長与専齊は、全国の府県に対して明治六年六月十九日内務省達第八九号により、管内の医師の状況を調査している。

その調査では、地区の人口と医師数を報告させているが、別紙雛形がついており、個人別に明細書を書かせてい

る。

今回見つかった資料は、明治七年七月調査に基づく明治九年医師履歴調査書、明治九年九月改五大区医員録及県令甲第六三号による医会規則があったが、残念ながら山県郡医師調査の基になった明細書は残っていないかった。

この調査書の略文によると、村名、氏名、年齢、修学期間、師事した医師、修学科目、開業時期と開業地名が記載されており、身分の記載がないが、内務省達第八九号の雛形によっていると考えられる。

この調査によると、明治七年七月現在の医師数は一〇三人で、山県郡の人口は約五万五千人である。七四カ村からなる山県郡で戸河内村は一三人、加計村七人、穴村、吉木村、有田村各六人の医師がいるが、田原村、春木村、溝口村、上石村等三五カ村は無医村である。医師の年齢構成は三十歳代が二七人でもっとも多く、四十歳代、二十歳代の順であった。修学地についてみると、郡内がもっとも多くて三六人、次いで広島、京阪、東京の順であるが、修学地が不明の人もかなりあった。修学期間は、最短修学期間は六ヵ月、最長修学期間は二四年で、平均修学期間は五年

三ヵ月であった。明治十二年の医師試験制度によって開業試験制度は面目を一新する。この制度による受験願書には修学履歴書を添付することになっており、三年以上の修業の実績を明記したものでなければならぬと明治十五年の通達が出ているが、ほとんどの人がこの条件を満たしている。

江戸時代後期の医学は、漢方医学、古方医はようやく漢蘭折衷派に移り、他に折衷派（考証学派）があり、新しくオランダ医学を主とした洋方医学の三つの派があり、当時の一〇三人の医師をこの三派に分けて、年齢、修学地、修学期間等についても検討し報告する。

（山県郡医師会史編纂委員会）

済生学舎廃校の歴史

唐 沢 信 安

済生学舎を源流とする日本医科大学の校史にとって、明治三十六年八月末日の長谷川泰校長の廃校宣言に至る過程には、今日なお謎とされる点が多々ある。

(一) はたして済生学舎は、入沢達吉の説のように、長谷川泰の単なる気まぐれと、金の出しおしみで廃校宣言を出したのか。

(二) 済生学舎と今日の日本医科大学は、本当に関係あるのか。

(三) 磯部検蔵は本当に日本医科大学の学祖なのか。

右の三つの問題点は、今日まで日本医科大学の卒業生の心を痛めてきた大きな問題点である。

そこで筆者は数年を要して、東京都公文書館、長谷川泰